

平成23年度NGO職員受入れ研修プログラム アンケート結果

平成24年3月6日

民間援助連携室

【評価方法】

a:非常に有益だった b:有益だった c:有益でなかった d:どちらともいえない e:受講していない

1. 研修内容の有益性について

～各プログラムの評価一覧～

プログラム内容	a	b	c	d	e
(1)外務省組織説明	0	5	0	1	0
(2)局幹部との意見交換	6	0	0	0	0
(3)「ODA総論」ブリーフィング	0	6	0	0	0
(4)「ODA評価」ブリーフィング	4	2	0	0	0
(5)「ODA広報」ブリーフィング	5	1	0	0	0
(6)「民連室の業務」ブリーフィング	4	1	0	1	0
(7)「JICAの業務・技術協力」ブリーフィング	4	1	0	1	0
(8)「分野別アプローチ・MDGs」ブリーフィング	2	4	0	0	0
(9)「官民連携」ブリーフィング	3	3	0	0	0
(10)「緊急人道支援」ブリーフィング	1	4	1	0	0
(11)民連室員との意見交換	2	3	0	1	0
(12)NGO・外務省連携推進委員会 出席	1	4	0	0	1
(13)N連の執行方針と案件選定会議の流れ	4	1	0	0	1

～各プログラムに関し、上記評価を選んだ理由等～

(1)外務省組織説明

- ・ 組織についてよく知らなかったので、知ることが出来てよかった。
- ・ 外務省の組織について、ほとんど知識がなかったが多数の部署があり、内容也多岐にわたっていることがよくわかった。
- ・ 部局間の連携等、書面からは分からない情報を得られた。
- ・ 外務省の組織全般について知ることができ、良かったです。資料が最新のものであればなおよいと思いました。
- ・ 外務省の組織詳細については、知らなかったが、とても抽象的な概要説明であったため、あまり説明を受ける必要性を感じなかった。(資料を読めば得られる情報のみであった)
- ・ 外務省全体の体制の中で民間援助連携室及び国際協力局がどこに位置しているのか改めて理解することができて良かった。また、10局3部の構成とこれまでの変容についても理解できた。

(2)局幹部との意見交換

- ・ 越川局長のご経験など、お話を聞く機会をいただけて良かったと思いました。親しみやすいお人柄に触れることができて良かったです。
- ・ 話しやすい環境の中でお話できたことは大変良かった。また、参加者の興味や実施活動の内容に応じて、話の内容を広げていただいてよかった。
- ・ 様々な話が聞けて、面白かった。ざっくばらんにお話できて大変よかった。これまで外務省という遠い存在のような気がしていましたが、このような機会がいただけ、親しみを覚え、頑張ろうという気持ちにつながった。
- ・ とても楽しいランチミーティングでした。局幹部の方の豊富な経験を聞かせていただき、今後の活動の参考にしたい。
- ・ 局長レベルの職員との地已を得る機会はなかなか無いため。(単なる挨拶、名刺交換レベルではなく)
- ・ 局幹部の皆様と顔の見える関係構築が行えたため良かった。局長の忌憚ない発言にとっても好感が持てた。

(3)「ODA総論」ブリーフィング

- ・ ある程度、知っていた内容であったが、詳細の情報については知ることが出来て良かった。N連関連予算の増額については、NGOとしては嬉しい情報であった。
- ・ 以前から疑問だった点や、把握したいことを知ることが出来たので。
- ・ これまで詳しく知らなかったことが分かりよかった。
- ・ 諸外国と比較した日本のODAの状況を分かりやすく説明していただけて良かった。また、ODA大綱や中期政策など、改めて詳しく説明していただき全体的な現状を理解することができた。
- ・ ODA全般について知ることができて良かったと思います。資料は今後も見返して、理解していきたいと思います。
- ・ ODAについての詳しい内容がわかり、資料も豊富で参考になった。

(4)「ODA評価」ブリーフィング

- ・ 外務省の評価業務については全く知っていなかったため。
- ・ ODA評価の全体像がわかりやすくまとまっていたよかったと思います。一方、外務省とJICAの評価がどのように連携しているのかももう少し知りたいと思いました。
- ・ ODA 評価と JICA の評価の相違を学ぶことが出来て良かった。もう少し踏み込んだ内容の情報提供を受けたかった。
- ・ どのような評価を行っているか分かりよかった。
- ・ 個人的にODAの評価については、まだまだ議論の余地があるような気がしているので、評価部分概要のところをもう少し詳しくききたかった。
- ・ 外務省と JICA の実施する評価体制の違いがよく分かった。

(5)「ODA広報」ブリーフィング

- ・ 具体例が身近で分かりやすく、大変楽しみながら理解することができた。

- ・ 広報担当としてのご苦労や、広報戦略についてお話をうかがうことができて良かったです。何らかの形でうまく協働していくことができればと思います。
- ・ 外務省の広報戦略やグローバルフェスタの取組みを直接聞けたことは大変良かった。また、私達は NGO 側の広報戦略を考えているが、外務省として、国際協力をどう世論に訴えていくかの外務省の広報戦略を聞けて大変参考になった。
- ・ 震災後、ODA予算が減少している中、どうして今ODAが必要なのかをアピールするのは難しい課題であると思うが、担当の方の広報戦略などが聞けてとても良かった。研修後も地域に戻ってODAの必要性和重要性をアピールしたい。
- ・ 官庁の中では(多分)珍しく広報戦略を描いて活動されていることが分かったのだ。
- ・ NGO も外務省も広報の重要性や国民/支援者への説明義務は同様であり、外務省広報をその様な視点で考えたことがなかったのだ、興味深かった。国際協力の理解改善については、外務省と NGO が協力すべきであると改めて認識した。

(6)「民連室の業務」ブリーフィング

- ・ NGOのための様々な支援事業があるということが分かりました。機会があれば活用していきたいです。
- ・ 日ごろお世話になっている民間連携室が、どのようなスタッフ体制でどんな仕事をしているかがわかり、今後、補助金やN連を申請する際などの参考にしたい。
- ・ 当団体は NGO 相談員業務でのつながりがあったが、民連室の他の職員がどのような業務を実際に行っているのか全体像を把握することが出来、有益であった。
- ・ 申請にあたっての実務的情報を得ることが出来たのだ。
- ・ 現在の業務について聞けてよかったが、いただいた資料で十分分かるので、特に時間をとっていただく必要はない気もした。
- ・ これまでは、事業を担当していただいている民連室の職員の方のみとしか接する機会がなかったため、他の職員の方の業務を知らなかったが、今回、民連室の全体業務を理解することができて良かった。

(7)「JICAの業務・技術協力」ブリーフィング

- ・ JICAサイドからの話を聞くことが出来よかった。
- ・ パートナー型に出願した経験があり、既知の内容が大半だったため。
- ・ 今年度、草の根技術協力の支援型に申請したいと思っているので大変参考になった。
- ・ N 連と JICA の草の根パートナー事業の特徴や違いが明確になって良かった。
- ・ JICA の持っている NGO 支援スキームについて、知ることが出来、有益であった。
- ・ 市民社会に国際協力を広めていくというJICAの姿勢を見ることができて良かったです。

(8)「分野別アプローチ・MDGs」ブリーフィング

- ・ 菅コミットメントを日本政府として実現していく姿勢を確認できて良かったです。ポストMDGsに向けての動きにも注目していきたいです。
- ・ MDGs以外の話が逆に大変面白かった。

- ・ ミレニアム開発目標については、あまり詳しくしなかったのととても勉強になった。
- ・ 日本政府の積極的なイニシアチブについて等、MDGs の設定背景並びに、ポスト MDGs の策定の動きについて、学ぶことが出来良かった。今後の動きに注目したい。ただ、MDGs の概要についての説明は不要であった。
- ・ MDGsについてはフォローしておらず、概況が把握できたことと、Rio+20やWB総会での動きも教えていただけてので。
- ・ 外務省の MDGs に関する話が聞けて良かった。MDGs を世論に訴えていく難しさを知った。

(9)「官民連携」ブリーフィング

- ・ 企業とODA連携については殆ど関心を払っていなかったが、ODA全体の方向性がどうなっているかという意味で、重要な側面を成しており、それへの理解を深めることができたので。
- ・ 外務省の NGO との連携に向けた積極的なアプローチについて知ることが出来て良かった。今後更に推進したい。
- ・ 「官民連携」についてほとんど知らなかったのも、大変興味深く聞いた。
- ・ 中小企業も途上国で積極的に支援できるように体制が整いつつあることが分かった。NGO も中小企業と連携していきたいと思う。
- ・ 官民連携という国際協力の中でも新しい意義について知ることができ良かったです。まだ件数は少ないようなので、日本の中小企業がこの仕組みを知り、活用していければよいと思います。
- ・ お話の中でODAと中小企業とNGOの連携の例を聞き、ODA予算を使った国際協力が地方の中小企業を活性化させる機会になることを知りとても参考になった。もっと成功事例があればより良かった。

(10) 「緊急人道支援」ブリーフィング

- ・ 様々な国際機関と連携して緊急人道支援に取り組んでいることがよく分かりました。
- ・ 外務省の緊急支援に関する考え方、実施方法が分かってよかった。
- ・ 団体の活動の性質上この分野に関与することがないため。市民としては学べることの意義はあるが、仕事としては不用。
- ・ UNHCRとの連携など、あまり知らなかった部分が知れた。
- ・ 震災後、日本でも重要視されている緊急支援の内容を知ることができ良かった。資料がホームページのものだったので、わかりやすいPPTの資料などがあればもっとよかったのではないと思う。
- ・ JPF の役割について、また資金源について知ることが出来た。

(11) 民連室員との意見交換

- ・ 業務内容・日頃の苦勞が分かり、興味深かった。外務省の中でも民連室の業務は異質であるが、NGO についての理解を外務省内でも深めていただきたい。また、NGO の底上げ(能力、キャパティ)の必要性も感じた。
- ・ 自分の質問の内容が他の団体とは違い、具体的なものではなかったのも担当の方も戸惑ってしまったようだった。ただ、これからの国際協力の必要性として、地域に還元できる案件、特に中小企業との連携の重要性を再確認することができた。

- ・ 自分が疑問に思っていたこと、組織が成長する上で非常に有益なアドバイスがいただけた。
- ・ まだ1日残した時点で総括的な話題になっていたのも、タイミングが早いのかと思う。
- ・ 民連室の職員の皆様がNGOと協力していきたいという姿勢が見えてよかったです。
- ・ 民連室の方とざっくばらんにお話できて良かった。また、JPF や他団体が抱えている問題や意見なども議論することができて大変勉強になった。

(12) NGO・外務省連携推進委員会 出席

- ・ 議事内容は公開されるものの、1回出席して雰囲気分かると、今後出席の是非を検討し易くなるため。
- ・ 初めて参加させていただきましたが、どんなアジェンダが話題となっているのか、NGOと外務省のやりとりも見ることができて良かったです。これまでの議事録も見てみたいと思いました。
- ・ 実際の委員会に出席出来るというチャンスはまずないため、大変良い機会でした。
- ・ 報告内容は既に知っている(研修中に得た)内容であったが、再確認することが出来た。地方の NGO の参加を促進してほしい。
- ・ ポスト MDGs や N 連無償に関して、外務省や NGO の立場の違う意見が聞けて大変良かった。

(13) N連の執行方針と案件選定会議の流れ

- ・ NGO との連携に関する室長のお考え、今後の N 連の向う方向について伺うことが出来て良かった。民連室がこれほど親 NGO の姿勢を持たれていることは本研修に参加して初めて分かったことだった。
- ・ 具体的に聞けておもしろかった。
- ・ N 連の予算の執行状況について全体的な動きが見えて良かった、また、民連室の方が N 連の開始以来、より使いやすくできるように改善してくださっていたことを改めてわかり、大変ありがたく感じた。
- ・ 山口室長とざっくばらんにお話できて良かったです。
- ・ 室長と本音ベースでの話ができただけ。

2. 本研修プログラムを通じて外務省に対する知識・理解が深まったと思いますか。

- 非常に深まった …5名
- 深まった …1名
- 特に変化なし …0

3. プログラム期間の妥当性

- 長い …3名
- 適当 …3名
- 短い …0

4. 上記3. で a. または c. と答えた場合、その理由及び適当な期間

- ・ 必須モジュールに自分としてはやはり不要なものが組み込まれており、その分が長いというよりも無駄

な感じをどうしても持ってしまう(業務的必至状況にもよりますが)。そこを勘案すると半日位短縮できると思う。

- ・ プログラムをタイトにし、2日間にしたらもっと参加しやすいのではないかな。
- ・ 休憩時間が長いような気がしたので、時間を有効に使って2日間くらいの研修にすれば参加しやすいのではないかと思います。

5. プログラム実施時期についてコメントがあればご記入ください。

- ・ 3月下旬年度末ギリギリのタイミングなどであれば参加は厳しかったかもしれないが、今回は偶然タイミングがよかったように思った。
- ・ 大きなイベント等もない時期であったため、適当だと思います。
- ・ 政策協議会や連携推進委員会の開催タイミングに合わせるというのは良いことだと思う。
- ・ N連については、3月初旬はガイドライン改訂中の時期であるため、改訂後で夏頃までの実施であれば更に有益ではないか。(6月～8月頃)
- ・ 今の時期がとてもいい。

6. 本プログラムで得た知識を貴団体内で共有されますか。また、どのような方法で共有されますか。

- ・ 共有する。団体内でブリーフィング、資料の回覧など。
- ・ 研修報告書を作成しミーティングで共有したい。
- ・ 資料を共有して、他の職員にも参加してほしいと思います。質問事項についての回答についても報告したいと思います。
- ・ はい。報告書として団体内に共有。資料を団体内、並びに四国内の NGO と共有。相談員業務へ反映させる。
- ・ 申込の許可を得る時点で報告書を提出することになっており、それにより共有が図られますが、読まれることを保証するものではありません。
- ・ 研修の報告書と配布資料を自団体内で回覧する予定です。

7. 本研修プログラムへの参加が、所属団体にとって有益であった点があればご記入ください。

- ・ 外務省の目指しているところが何か把握できたこと。業務に直結しないが、知識として持っているが強みになるような性質の情報を得ることができたこと。
- ・ どの部署の方との連携を深めていけばよいか、よく分かりました。
- ・ 今後、申請しようと思っている草の根技術協力の詳しい話を聞いたこと、また経験のある NGO の方のお話を聞いたことがとても良かったです。
- ・ より外務省と NGO の連携を深めるという点。意見交換が出来、ご助言もいただいけ、大変有益だったと思う。
- ・ 外務省の全体的な内容から実務レベルの内容まで詳しく説明していただき、大変勉強になった。また、民連室や JICA の担当職員の方々が毎回質問しやすい雰囲気を作ってくださり、大変良かった。
- ・ 有益であった。外務省・民連室との関係性の構築にプラスであったこと、NGO に有益なプログラム、スキームについて(外務省、並びに JICA)学べたことが有益であった。

8. 今後の研修プログラムにおいて希望する具体的な研修内容。

- ・ 概要から一歩踏み込んだ内容の提供がなければ、資料を読むのと変わらないためもっと具体的な内容をお願いしたい。
- ・ 外務省が連携している官民の「民」、「国際機関」側担当者からの現状の話なども聞けると、より客観的、双方向的にさらに立体的にイメージが出来るかもしれないと思った。
- ・ 案件選定会議の出席、もしくは模擬を実施したら良いと思います。
- ・ 基本的な内容について十分に教えていただけたと思っています。
- ・ 年度重点方針や国別援助方針等の策定プロセスに関するレクチャー。他のドナー国のODA特徴と比較した日本のODAの特質。
- ・ 内容的にはとてもよかったです。研修も少人数で話やすい雰囲気をつくっていただいたので、いろんな質問を気おくれなくすることができました。お忙しい中、私たちのために時間を作っていただきありがとうございました。

9. 本研修プログラム改善のための提言・要望

- ・ 配布資料を常に両面印刷にしていいただきたい。紙の無駄です。組織図が古かったのでネットで提出されていたものを打ち出されていましたが、研修用に適切な水準のものを配布資料として作成する。
- ・ 案件選定会議が見てみたかった(模擬でもよいかもしれません)。資料が事前に見られるとよかったかもしれません。省内の様子を見てみたかったです。
- ・ 若干、初日、2日目は、スケジュールがタイトな気がした。ずれ込むことを見込んで、休憩時間をやや多めに設定してはいかがでしょうか。研修中に浮かんだ質問、疑問点(民連室取扱い以外のトピックについて)を省内にいるうちに、民連室ではない他のセクションの方と直接話し、クリアにする予備の時間があればよいです。
- ・ あらかじめ配布資料をもらえていたら、質問をあらかじめ準備できる。他団体からの質問等も事前に受け、研修に臨める。配布した資料をデータベースとして共有してもらえれば、他団体との共有がしやすくなる。各団体の興味に応じてプログラムが選択できるようなプログラムの提供。
- ・ 研修期間の長さ以外は特にありません。
- ・ 今回は参加者が少なかったため、より多くの方が参加できるようなくみにしていただければより良いと思います。

10. NGOと外務省の間での人事交流について、どのような形式、期間などがあればよいと考えますか。具体的なアイデアがあれば記入して下さい。

- ・ ざくばらんに外務省(民連室)と話しあえる意見交換会。(テーマごと等)。
- ・ 民連室の職員の方と各NGO団体のN連事業の担当職員が定期的に意見交換できる懇談会があればより良いと思います。
- ・ 外務省の方々は各NGOについてどの程度ご存じなのでしょう？ 個々の職員やプロジェクトについては知られていると思いますが、組織がどう運営されているか、どのようなビジョンを掲げていて、それをどう推進しているのか、プロジェクト担当とは無関係に、NGOによるプレゼンテーションの機会があっ

てもいいのではないのでしょうか。

- ・ 今回は、研修を通じ意見交換もでき、学びながら交流出来るというのは、無駄がなくて良いなと思った。NGO側も外務省側も日々大変忙しいと思うので、あえて時間を作るのはお互い厳しいかもしれないが、今回の研修の中にあった昼食会などは、食事をしながらざっくばらんにお話しが出来たので、年に1回位、昼食会を1日設けてもよいかもしれないです。
- ・ どんな機会でもよいので、NGO側の意見を聞いていただける機会があればうれしいです。
- ・

11. 次回も本研修プログラムへの貴団体職員の参加を希望されますか。

- a. 希望する …3名
- b. 人的な余裕があれば希望する …1名
- c. 希望しない …1名
- d. 現時点では不明 …1名

12. 上記で c. と答えた理由。(及びその他意見)

- ・ ODAに直結する業務に従事する者が他にはおらず、外務省・ODAについての理解が特に必要ではないため。この先1年間でこの事情もしくは担当者の変更が生じる可能性は極めて低く、発生したとしても私の研修報告から知識形成が可能。
- ・ 既に職員2名が参加しているため、他に参加すべきスタッフが出た場合は参加したい。

以上